

# 2006年9月中間期連結決算内容

(2871)

**株式会社ニチレイ**

【お問合せ先】

広報IR部 横山一樹

TEL: 03-3248-2235

E-mail: yokoyamakz@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

# 低温物流の採算改善と水産の改善で05／9比営業増益に

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

## 2006年9月中間期の連結業績

単位:金額=億円(未満切捨て)	05/9	06/9(E)	06/9	06/9対05/9比較	
				増減額	増減率
売上高	2,355	2,400	2,301	-53	-2.3%
営業利益	77	85	83	5	6.8%
経常利益	76	83	80	3	4.8%
中間(当期)純利益	26	61	61	34	127.3%

### 1. 売上高

06／9(E)・・・2006年9月中間期見込・・・は8月1日に発表したもの

①前年比2%の減収。要員を1／4削減した水産の13% 53億円減収が主因、家庭用調理冷食の販促費支出見直しを進める加工食品と畜産も減収、一方で低温物流は6%40億円の増収。

### 2. 営業利益

①加工食品は固定費の低減と物流費圧縮に加え、売上減にはなったものの販促費支出の見直しで採算が改善し増益に。

②水産は固定費が減少したことと、多額の不採算商材発生がなくなったことで5億円の改善。

③低温物流は物流ネットワークの採算改善に加え、地域保管でコスト低減が進み3億円の増益。

④不動産は土地などの分譲が減少したことにより5億円の減益。

### 3. 経常利益

①金融収支は05／9比1億円の改善。

### 4. 中間(当期)純利益

①特別損益は05／9比54億円の改善、関連会社の株式売却益と減損損失の減少によるもの。

# 加工食品は家庭用の販促費見直しで減収だが増益を確保

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

## セグメント別売上高と営業利益(その1)

### 1.加工食品

全体では2%の減収、4%の増益。業務用調理冷食は4%増と引続き好調だが、家庭用調理冷食が販促費支出の見直しで8%の減収、利益面では固定費の低減と物流費の圧縮が進み、さらに売上は減少したものの販促費支出見直しが採算改善につながったことで増益を確保。20周年を迎えテレビCMを積極投入したアセロラは売上拡大にはつながらず11%の減収。

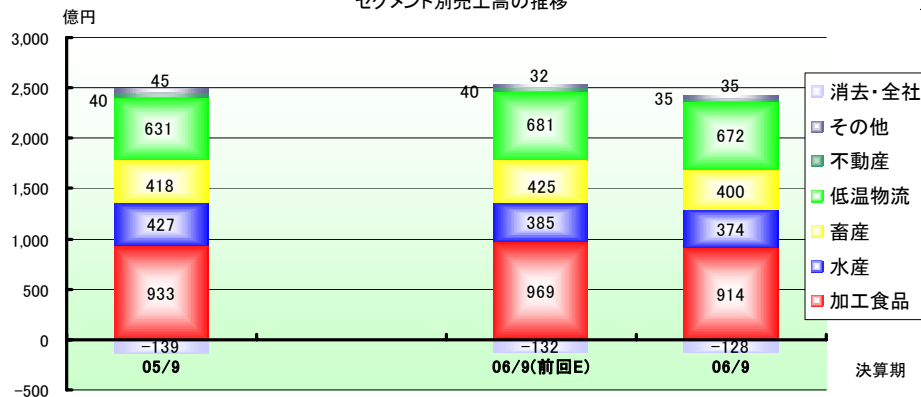
### 2.水産

1/4の要員減で05/9比13%の減収。一方、営業損失は固定費の減少に加え、得意商材への絞り込みと損失在庫処分がなくなり5億円改善。えびは原料高騰から加工品の取扱いを抑えたが、東南アジアえびなどの素材品は順調で前年並みの利益。

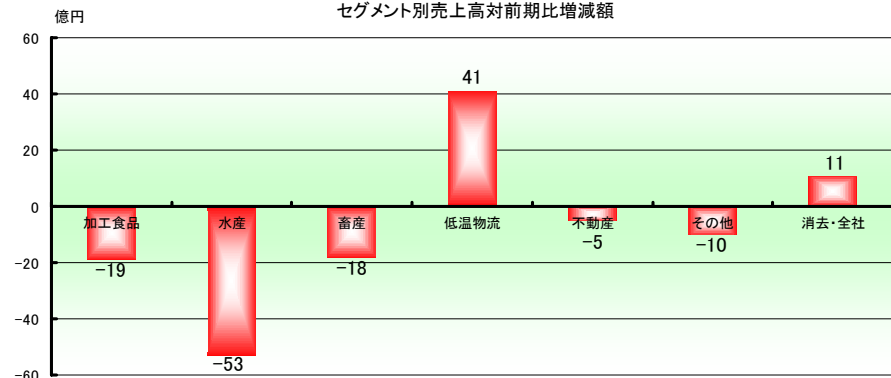
### 3.畜産

05/9比で減収・増益。鶏肉はブラジルチキンの供給過剰による市況低迷が響き大幅減収、牛肉は輸入牛内臓肉の販売価格が下落し減収、豚肉は国産品、加工品が伸長し増収。

セグメント別売上高の推移



セグメント別売上高対前期比増減額



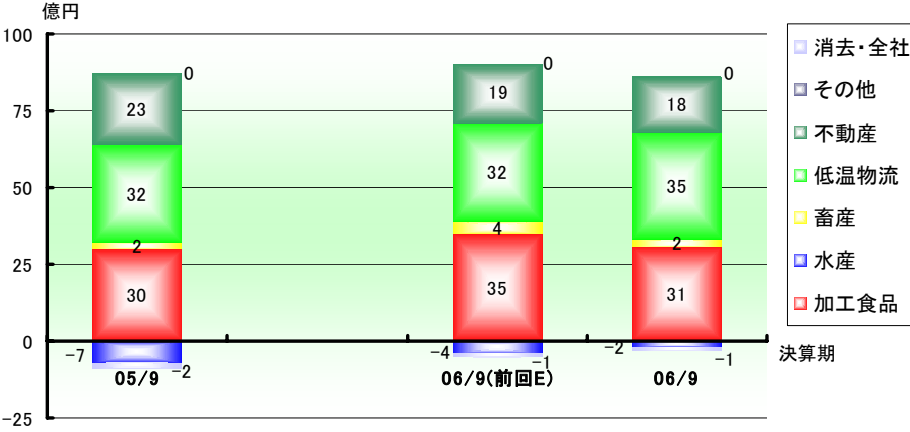
(以下、グラフの金額単位表示未満は四捨五入し一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている)

# 低温物流は増収・増益、不動産は大型分譲がなく減収・減益

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

## セグメント別売上高と営業利益(その2)

セグメント別営業利益の推移



### 4.低温物流

売上は地域保管が減収となったものの、物流ネットワークの新設センターが寄与し増収、営業利益は物流ネットワークの採算改善と地域保管のマンパワーコスト削減の取組みが広く各地に展開され増益。

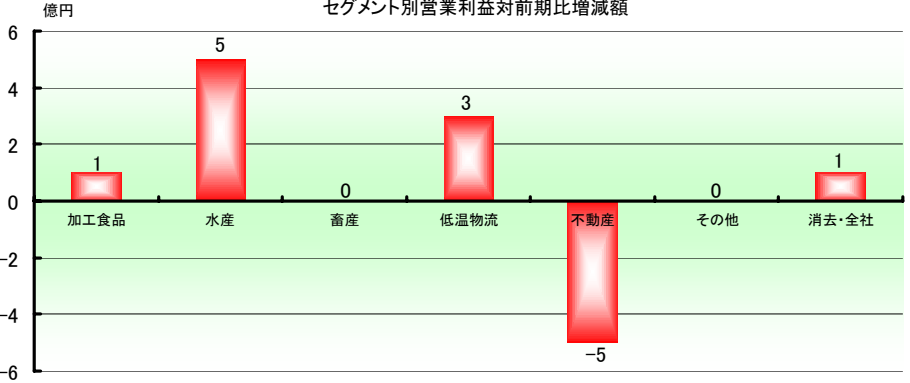
### 5.不動産

06/9は大型の分譲案件がなく05/9比で減収・減益

### 6.その他

昨年度末に営業を停止した食品卸売子会社の売上がなくなり減収、てんぐは牛肉加工品の再開には時間がかかる見通しで、生産を大幅に縮小した状態が続く。

セグメント別営業利益対前期比増減額



# 家庭用調理冷食の売上減が響き全体でも減収

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。ニチレイ

## 冷凍食品売上高

### 1. 冷凍食品全般

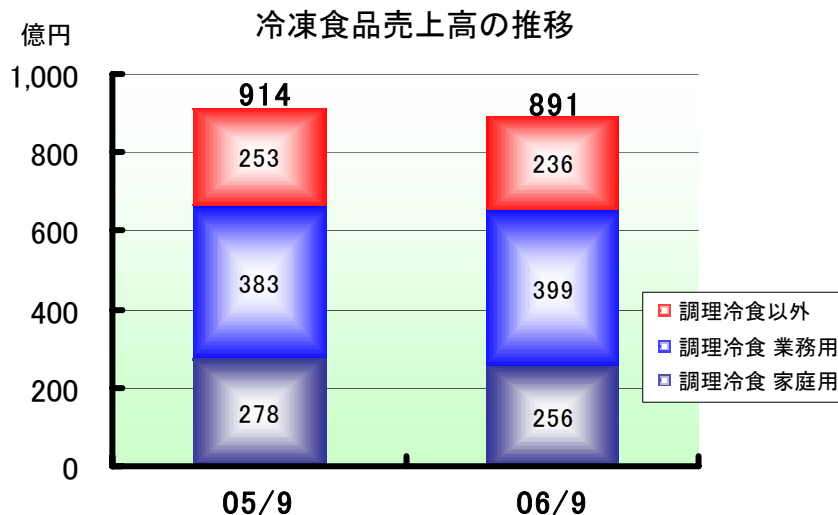
05/9比3%の減収。調理冷食は家庭用の減を業務用でカバーできず1%の減収。冷凍野菜は主力のハッシュドポテトや枝豆の売上が伸び悩み3%の減収。

### 2. 調理冷食

①家庭用: 売上は価格や販促費支出見直しの取組みを進める中、配荷率が前年割れで推移し05/9比で8%の減収。「からあげチキン」などのチキン加工品や「甘えびシューマイ」「本格炒め炒飯」などの大型商材が配荷の低下と特売の減少などで伸び悩んだ。「お弁当にGood!」シリーズは「ミニハンバーグ」「こてこてソースのミンチカツ」「衣がサクサク牛肉コロッケ」が好調に推移したものの、シリーズ全体の売上は伸び悩んだ。

②業務用: 売上は05/9比4%の増収。から揚げやフライドチキンなどのチキン加工品が牽引したほか、「枝豆と豆腐のふんわり天」などの「ほっとするおかず」シリーズが増収に寄与。

③カテゴリー別にはから揚げやフライドチキンなどのチキン加工品や「やわらかひとくちカツ」などの食肉加工品が好調に推移した。

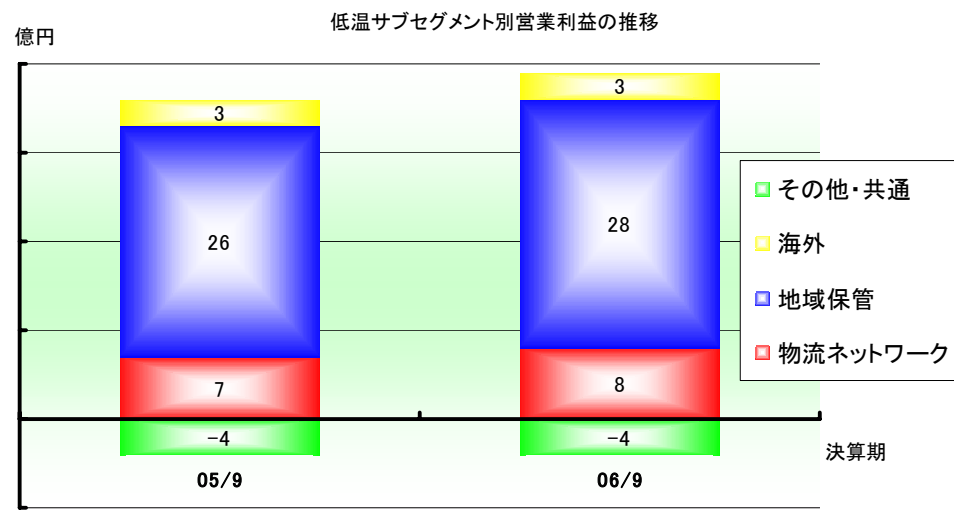
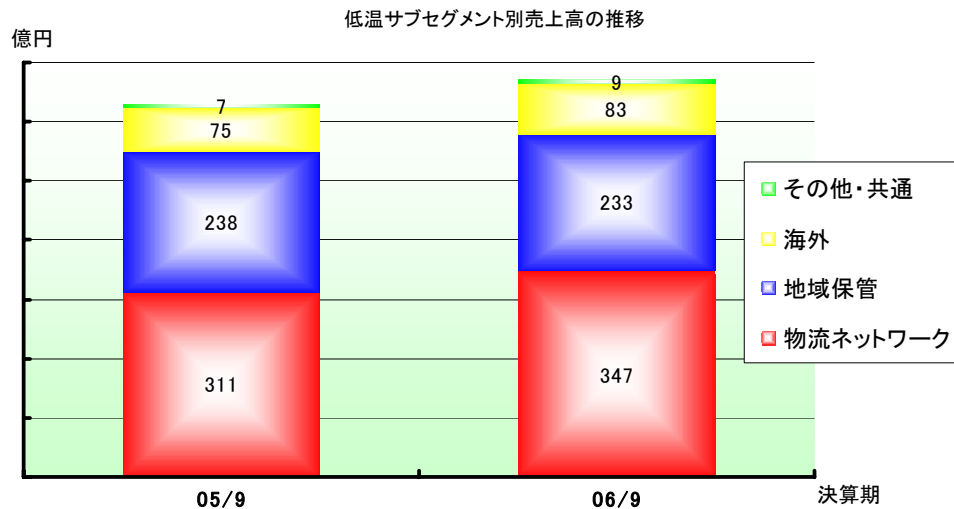


注: 水産品、畜産品の商品分類変更により、「調理冷食以外」に含まれている冷凍食品に該当する水産品、畜産品の対象範囲が変更になった。これにより05/9の数値を遡及修正しており、影響額はプラス9億円である。

# ネットワーク事業は不採算事業所や運送の採算改善が進む

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

## 低温物流事業の対前期比増減の要因



### 1. 物流ネットワーク

昨年10月と今年4月の新設センターが貢献し06/9比11%と大幅増収に、営業利益は新設センター初期費用が発生したが、混載化やパレット輸送・定時発着の推進で運送の粗利益率が向上したほか、不採算事業所の改善も順調に進み増益

### 2. 地域保管

売上は地域密着型営業を継続するも輸入畜産物の在庫量減で在庫率が低下、ハリケーンによる原産地の不作で果汁原料の取扱いが減少したこともあり2%の減収。一方、営業利益は関西・九州で先行したマンパワーコスト削減の取り組みが首都圏の大型事業所でも横展開ができ増益。

### 3. 海外

全体では増収・減益。欧州では、EU拡大による旺盛な需要を取込み運送が順調に伸び増収、一方、果汁原料の取扱い減少が響き減益。

# 畜産物輸入力減で在庫量が減少に転じる

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

## 冷蔵倉庫の稼働状況

### 1. 業界の状況

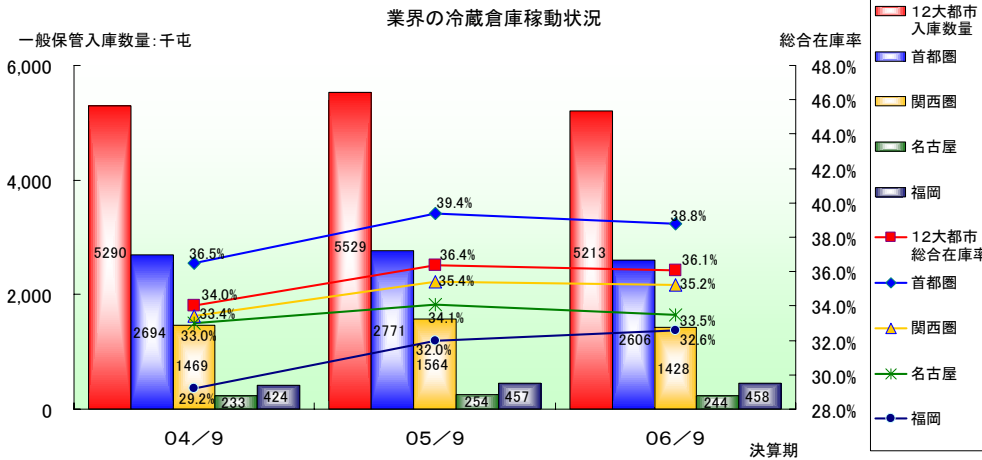
在庫量は畜産物輸入力が大きく減少したため首都圏をはじめ全般的に減少、在庫率も下落に転じる。

### 2. ニチレイグループの状況

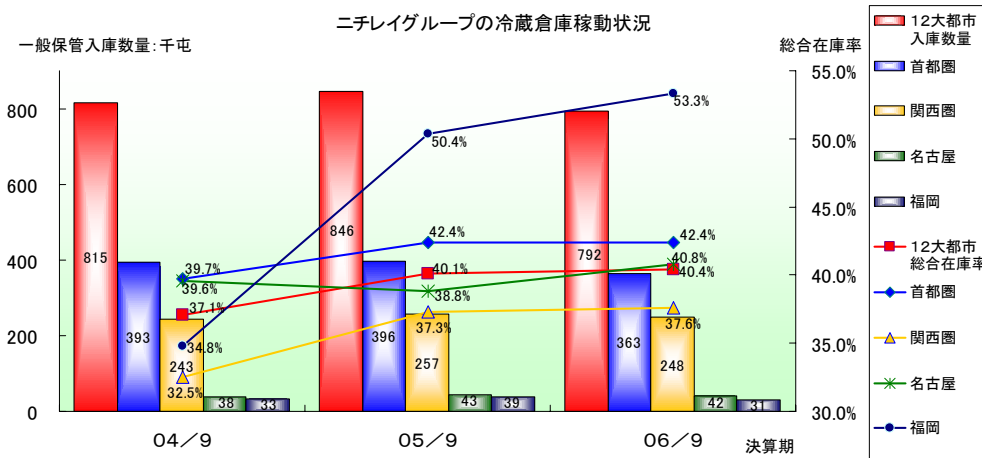
在庫量は畜産物の搬入量が減少したため、前年を下回る。在庫率は横ばいだが6月以降は下落傾向にある。

### 3. 業界の設備能力

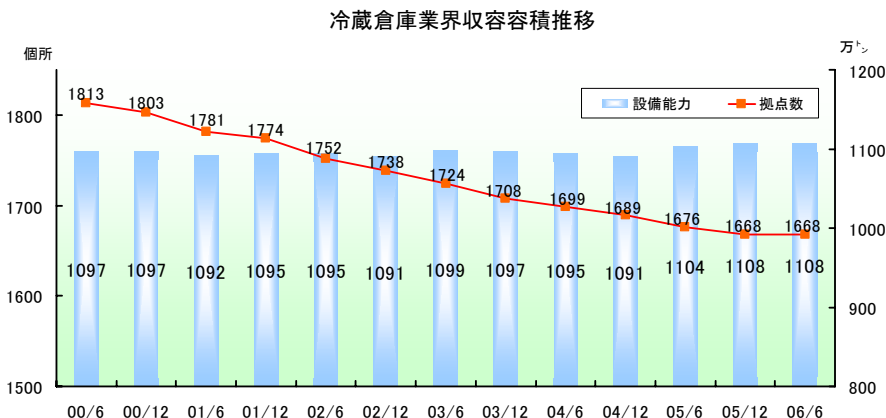
拠点数、設備能力ともに下げ止まりの兆し。



(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)



(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)



# 季節要因で総資産が増加

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

## 06／9期連結バランスシートの変動要因

単位：億円（未満切り捨て）

### 【主な要因】

- ① 売上債権が季節要因や月末が銀行休業日だったため118億円増加。一方、未収入金が幕張マンション分譲代金の回収などで31億円の減少。
- ② 有形固定資産は設備投資が増加したが減価償却などで20億円の減少。投資有価証券がアールワイフードサービスの株式売却と時価評価額の減少により43億円の減少。
- ③ 季節要因により仕入債務が18億円増加。1年以内返済の社債100億円を固定負債から流動負債へ振替。

科目	06/3	06/9	増減	
<b>〔資産の部〕</b>				
流動資産	1,081	1,168	86	①
固定資産	1,603	1,547	-55	②
資産の部合計	2,685	2,715	30	
<b>〔負債・資本の部〕</b>				
流動負債	830	958	127	③
固定負債	821	699	-122	③
負債の部合計	1,652	1,657	5	
純資産の部	1,032	1,057	25	
（うち自己資本）	1,026	1,051	25	
（有利子負債）	862	867	5	
<b>科目</b>	<b>05/9</b>	<b>06/9</b>	<b>増減</b>	
（設備投資額）	21	26	4	
（減価償却実施額）	53	45	-7	

注：06／3の純資産の部の数値は、少数株主持分と資本の部の合計で算出



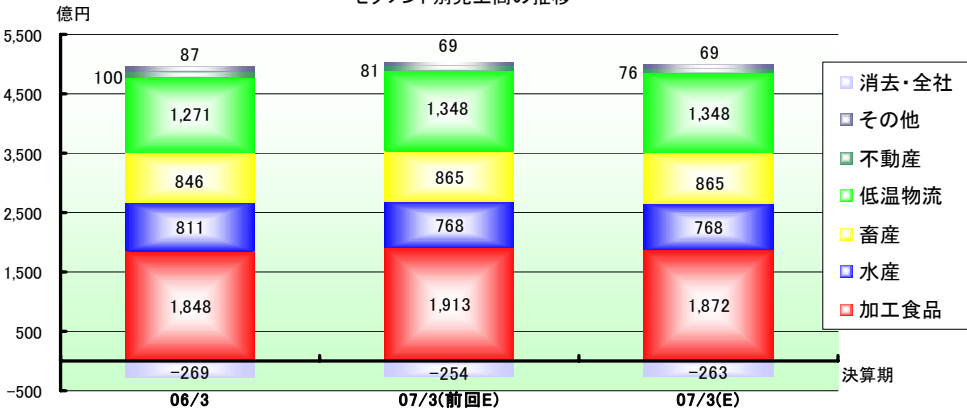
# 水産の損失縮小と加食・低温物流の増益で利益目標達成へ

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

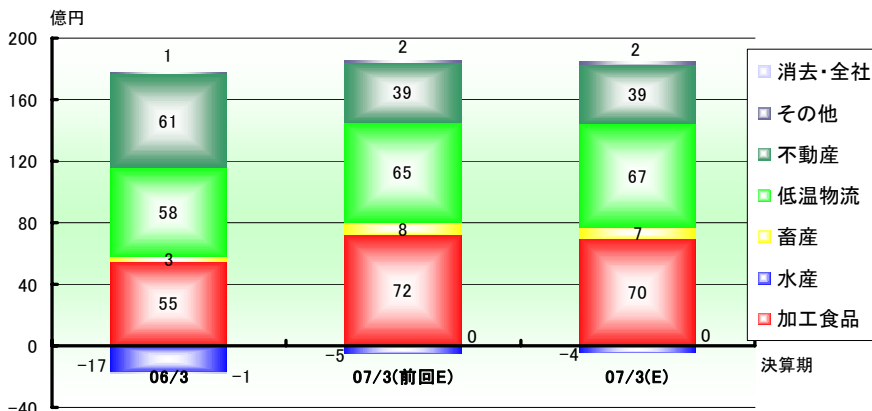
## 2007年3月期の連結業績見込み

単位:金額=億円(未満切捨て)	06/3	07/3(前回E)	07/3(E)	07/3(E)対06/3比較	
				増減額	増減率
売上高	4,694	4,790	4,735	+40	+0.9%
営業利益	160	181	181	+20	+13.0%
経常利益	156	175	175	+18	+11.7%
当期純利益	62	111	111	+48	+76.4%

セグメント別売上高の推移



07/3(前回E)は8月1日に発表したもの  
セグメント別営業利益の推移



- 加工食品は売上目標を引き下げるも業務用が引き続き牽引し06/3比増収、販促支出の見直しや製造コスト・物流費削減が寄与し06/3比大幅増益に。
- 水産は再生プランが着実に進捗し06/3比で営業損失幅が大きく縮小。
- 低温物流は物流ネットワークの新設拠点が売上増に貢献、物流ネットワークでは採算の改善も順調に進み、地域保管のマンパワーコスト削減の取り組みと相俟って大幅増益。

# 特別損益は関係会社株式売却で大幅プラスに

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位:億円、単位未満切り捨て プラス表示は利益を示す		中間期					通期		
		06/9	05/9	増減			07/3E	06/3	増減
<b>【営業外収支】</b> (主要項目)		-2	-1	-1	<b>【営業外収支】</b> (主要項目)		-6	-3	-3
金融収支		-3	-4	+1	金融収支		-8	-10	+2
持分法投資損益	①	+6	+5	+0	持分法投資損益	①	+9	+10	-1
<b>【特別損益】</b> (主要項目)		+26	-27	+54	<b>【特別損益】</b>	④	+17	-25	+42
固定資産売却益	②	+6	+11	-5					
関係会社株式売却益	③	+29	+0	+29					
減損損失		-3	-35	+32					

## ①持分法投資損益の増減の主な内訳

06/9:アールワイフードサービスが+1億円

07/3E:アールワイフードサービスが下期から持分法適用会社から外れ▲2億円

## ②土地の売却益

## ③アールワイフードサービスの株式売却益を計上

## ④下半期に発生が見込まれる主なものは

- 固定資産除却損

# データ集

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

## セグメント別売上高・営業利益の実績・見込・前回見込・前年実績

単位：億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	中間期			下期			通期		
	06/9		05/9	07/3		06/3	07/3		06/3
	実績	(前回E)		(E)	(前回E)		(E)	(前回E)	
<b>(売上高)</b>									
加工食品	914	969	933	958	944	915	1,872	1,913	1,848
水産	374	385	427	394	383	384	768	768	811
畜産	400	425	418	465	440	428	865	865	846
低温物流	672	681	631	676	667	640	1,348	1,348	1,271
不動産	35	40	40	41	41	60	76	81	100
その他	35	32	45	34	37	42	69	69	87
全社または消去	-128	-132	-139	-135	-122	-130	-263	-254	-269
合計	2,302	2,400	2,355	2,433	2,390	2,339	4,735	4,790	4,694
<b>(営業利益)</b>									
加工食品	31	35	30	39	37	25	70	72	55
水産	-2	-4	-7	-2	-1	-10	-4	-5	-17
畜産	2	4	2	5	4	1	7	8	3
低温物流	35	32	32	32	33	26	67	65	58
不動産	18	19	23	21	20	38	39	39	61
その他	0	0	0	2	2	1	2	2	1
全社または消去	-1	-1	-2	1	1	0	0	0	-1
合計	83	85	78	98	96	81	181	181	160

注：(E)は今回発表した見込数値、前回(E)は8月1日に発表した見込数値

# 当資料取扱い上のご注意

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみにより全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①食品に関する衛生問題等
  - ②商品や原材料の価格変動
  - ③商品回収リスク
  - ④固定資産の保有リスク
  - ⑤保有有価証券の時価変動リスク
  - ⑥為替変動リスク
- など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。